



総合部門 アンケート

115項目

① 移住者の受け入れ実績 (7項目)

- 1 2022年度(4月1日から10月末日時点)の移住者(自治体の外から移住支援制度を利用して移住した人、窓口調査で「移住目的」とした人)の数を点数化。式は「移住者の合計人数÷人口×1000」
- 2 2022年度の移住者数の伸びは2021年度より少ない印象(0点)、同じくらいの印象(1点)、上回っている印象(2点)
- 3 2022年度の移住相談件数の伸びは2021年度より少ない印象(0点)、同じくらいの印象(1点)、上回っている印象(2点)
- 4 2022年度の移住者数はコロナ禍以前より少ない印象(0点)、同じくらいの印象(1点)、上回っている印象(2点)
- 5 2022年度の移住相談件数はコロナ禍以前より少ない印象(0点)、同じくらいの印象(1点)、上回っている印象(2点)
- 6 2022年度(4月1日から最新集計までの合計)は社会増(転出と転入の差である社会増減がプラス)を実現している
- 7 2022年度(4月1日から最新集計までの合計)は人口増を実現している

② 移住者歓迎度 (20項目)

- 1 首長が定住促進を公約にしている
- 2 移住の相談窓口(部署)がある
- 3 住居、仕事、子育てのほか、移住希望者が求めている情報にワンストップ窓口で対応している
- 4 土日や祝日にも移住相談を受け付ける窓口を常設している
- 5 大都市に市町村の移住相談員が常駐する窓口を常設している
- 6 移住支援に関する専任の担当者がある★(人数×0.1点を加算)
- 7 4年以上継続して移住支援を担当している自治体職員がいる
- 8 移住者の受け入れに理解のある区長(町内会長)がいる
- 9 移住前後のフォローを熱心に行っている民間団体がある★(団体数×0.1点を加算)
- 10 区費やゴミ処理の方法など地域のルールを移住相談者に知らせて、トラブルを未然に防ぐように努めている
- 11 移住セミナーや移住相談にZoomなどを使って積極的にオンラインで対応している
- 12 2022年度に市町村単独で移住セミナーを開催した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加算)
- 13 2022年度に移住セミナー・フェアに参加した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加算)
- 14 2022年度に現地体験ツアーを開催した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加算)

全279項目で調査!

アンケート内容

今回は「総合部門」が復活しました。

「若者世代・単身者部門」「子育て世代部門」「シニア世代部門」の各部門のアンケートの点数に(総合部門×0.05)を加算します。

※2022年10月末日時点での回答です。

※★印の設問は、人数、物件の売買件数・賃貸件数、イベントの回数などの数値×0.1点、×0.01点、×0.001点、×0.0001点のいずれかが加算されます。ただし、各設問の上限は1点になります。(例えば数値×0.1の設問の場合、数値が20でも点数は1点となります。)

点数の出し方

総合部門

総合部門アンケート114項目(設問1を除く)の点数
 +設問1(移住者の合計人数÷人口×1000)
 + (★印の設問の各数値×0.1点、×0.01点、×0.001点、×0.0001点)
 ※各設問の上限は1点

若者世代・単身者部門

若者世代・単身者部門アンケート45項目(設問1を除く)の点数
 +設問1(若者世代・単身者の移住者数÷人口×1000)
 + (★印の設問の各数値×0.1点)
 ※若者世代・単身者部門アンケートの★印の設問の点数はすべて数値×0.1点
 ※各設問の上限は1点
 + (総合部門アンケート114項目の点数×0.05)
 ※総合部門アンケート設問1「移住者の合計人数の点数」は除く

子育て世代部門

子育て世代部門アンケート79項目(設問1を除く)の点数
 +設問1(子育て世代の移住者数÷人口×1000)
 + (★印の設問の各数値×0.1点)
 ※子育て世代部門アンケートの★印の設問の点数はすべて数値×0.1点
 ※各設問の上限は1点
 + (総合部門アンケート114項目の点数×0.05)
 ※総合部門アンケート設問1「移住者の合計人数の点数」は除く

シニア世代部門

シニア世代部門アンケート37項目(設問1を除く)の点数
 +設問1(シニア世代の移住者数÷人口×1000)
 + (★印の設問の各数値×0.1点)
 ※シニア世代部門アンケートの★印の設問の点数はすべて数値×0.1点
 ※各設問の上限は1点
 + (総合部門アンケート114項目の点数×0.05)
 ※総合部門アンケート設問1「移住者の合計人数の点数」は除く

⑨ 自然の豊かさ、

伝統的な景観・文化の保全 (17項目)

- 1 「名水百選」「平成の名水百選」(環境省)がある
- 2 国立公園、国定公園、都道府県立自然公園などの自然公園がある
- 3 里山の保全に力を入れている
- 4 棚田の保全に力を入れている
- 5 清流がある
- 6 きれいな海がある
- 7 登山やトレッキングの人気スポットがある
- 8 おおむね域内のどこでも天の川が日常的に見える
- 9 名湯がある
- 10 保存・継承されている歴史ある祭りや伝統芸能がある
- 11 保存・継承されている伝統工芸がある
- 12 伝統的建造物群保存地区(文化庁)がある
- 13 自治体としてSDGsに取り組んでいる
- 14 ジオパークに指定された場所がある
- 15 「日本で最も美しい村」連合に加盟している(加盟している地域がある)
- 16 日本遺産(文化庁)に指定された文化財がある
- 17 世界遺産(ユネスコ)に登録された文化財や自然がある



若者世代・ 単身者部門 アンケート

23項目+共通23項目

若者世代=30代までの単身者
単身者=40代・50代の単身者

- 1 2022年度(4月1日から10月末日時点)の移住者のうち、50代までの単身者の移住者数を点数化。式は「移住者数÷人口×1000」
- 2 2022年度に40代・50代の単身の移住者がいる★(人数×0.1点を加点)
- 3 「地域おこし協力隊」(総務省)を受け入れている★(人数×0.1点を加点)
- 4 「地域おこし協力隊」の隊員で、現在、40代・50代の単身者がいる★(現在活動中の隊員の人数×0.1点を加点)
- 5 2022年に「地域おこし協力隊」を退任した人が、引き続き市町村内に定住している
- 6 「地域おこし協力隊」を募集すると、ほとんど毎回定員以上の応募がある
- 7 WWOOFのホストがある
(<https://www.woofjapan.com/home/index.php?lang=jp>)
- 8 孫ターン者のみを対象とする奨励制度がある
- 9 単身者が対象になる定住促進住宅(所得制限なし)がある
- 10 50代の単身者が対象になる定住促進住宅(所得制限なし)がある
- 11 単身女性が移住する際に奨励金を交付している

- 10 移住定住用の中間管理住宅がある
- 11 移住者向けに価格を抑えた、もしくは無償の分譲地がある
- 12 移住者向けの引越し費用の補助制度がある
- 13 移住者向けの賃貸住宅の家賃補助がある
- 14 移住者に住宅の新築費用を補助している
- 15 移住者に住宅の購入費用を補助している
- 16 移住者が賃借した住宅の改修費を補助している
- 17 移住者が購入した住宅の改修費を補助している
- 18 二地域居住でも費用補助(購入、改修、家財処分など)の対象になる空き家バンク登録物件がある
- 19 空き店舗の改修費用、設備費用、賃貸料に対する補助制度がある
- 20 木造住宅の耐震改修工事に対する補助制度がある
- 21 浄化槽設置の補助制度がある
- 22 移住者向けに家に残る家財処分費用を助成している
- 23 耕作目的での農地取得の下限面積要件を緩和している
- 24 空き家バンクの登録物件の農地取得に限って下限面積要件を大幅に緩和している(いわゆる「農地付き空き家」を指す)

⑥ 日常生活 (15項目)

- 1 コンビニがある
- 2 食品、薬、衣料、日用品、家電など日常生活に必要なものが一通り揃っている大型ショッピング施設や商店街がある
- 3 道の駅、もしくは、まちの駅、海の駅がある
- 4 ガソリンスタンドが2カ所以上ある
- 5 全域に高速インターネット網が整備されている
- 6 図書館がある
- 7 書店がある
- 8 スポーツジムや温水プールなど体づくりにも有用な施設がある
- 9 地域住民の利用料金が500円以下の温泉施設や共同湯が2カ所以上ある
- 10 有機農業が盛んである
- 11 米どころである
- 12 農・海産物の直売所がある(道の駅などに併設されている場合も含む)
- 13 果樹栽培が盛んである
- 14 畜産(肉牛、乳牛、豚、鶏など)が盛んである
- 15 地元素材を使った日本酒・焼酎・ワイン・ビール、ウイスキーなどの酒類の製造が盛んである

⑦ 交通 (7項目)

- 1 役場から高速のインターまで車で30分以内
- 2 高速バスのバス停がある
- 3 鉄道の駅がある
- 4 役場から有料特急の停車駅まで車や電車で30分以内
- 5 役場から空港まで車や電車で1時間以内
- 6 ペーパードライバー講習の費用を補助している
- 7 次世代自動車の購入費用を一部助成している

⑧ 医療 (6項目)

- 1 夜間・休日に時間外診療を行っている病院がある
- 2 5診療科以上を持つ病院(総合病院)がある
- 3 歯科診療所がある
- 4 薬剤師のいる薬局がある
- 5 緊急時にヘリコプターなど救命救急センターに搬送する手段があり、実際に活用している
- 6 就業保健師の数が人口2500人当たり1人以上いる(病院、介護施設、企業などの保健師を含む)

- 15 2022年度に費用負担を非常に低く抑えた現地体験ツアーを開催した。または予定している★(開催数×0.1点を加点)
- 16 2022年度に移住者や地元住民との交流を目的としたイベントを開催した(オンラインを含む)
- 17 2022年度の移住相談件数(オンラインを含む)★(相談数×0.001点を加点)
- 18 2022年度の移住希望者の現地案内数(オンラインを含まない)★(案内数×0.01点を加点)
- 19 LINEで移住相談に対応している
- 20 関係人口の増加に積極的に取り組んでいる

③ 定住促進の広報活動 (6項目)

- 1 移住希望者向けに情報誌(紙)を発行している
- 2 移住希望者にメールで情報を発信している
- 3 移住希望者に向けたホームページやブログ、Webマガジンを運営している
- 4 移住希望者向けにSNSで情報を発信している
- 5 定住促進のために有料広告を出している(各種メディア、Web、SNSなど)
- 6 YouTubeに市町村の公式チャンネルを開設している★(チャンネル登録者数×0.0001点、チャンネル動画本数×0.01点を加点)

④ 都市住民との交流 (13項目)

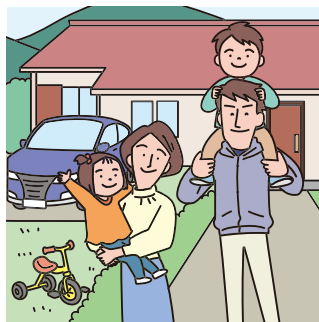
- 1 農林漁業体験民宿がある
- 2 農村カフェや農家レストランがある
- 3 棚田オーナー制度などのオーナー制度がある
- 4 田植え祭りや日曜マルシェなど、都市住民が訪れるきっかけになるイベントがある
- 5 ワークステイ、ワーキングホリデーを実施している
- 6 古民家改修塾や農業塾など、継続参加できる体験プログラムを提供している
- 7 アートや芸術祭による地域おこしに取り組んでいる
- 8 クラインガルテン(ラウベ付き区画ありに限定)がある★(施設数×0.1点を加点)
- 9 お試し暮らし施設がある★(施設数×0.1点を加点)
- 10 利用料無料のお試し暮らし施設がある
- 11 ふるさと納税で、現地で体験を伴う返礼品がある
- 12 来訪する移住希望者への交通費の補助制度がある
- 13 来訪する移住希望者への宿泊費の補助制度がある

⑤ 住宅支援 (24項目)

- 1 空き家バンク制度がある
- 2 空き家バンクへの物件登録を非常に積極的に働きかけている
- 3 2022年度に、空き家バンク登録物件の成約があった★(売買成約件数×0.01点、賃貸成約件数×0.01点を加点)
- 4 2022年10月末日時点で、空き家バンクに登録している契約可能な物件がある(売買も賃貸も可能な物件は賃貸物件としてカウント)★(売買件数×0.01点、賃貸件数×0.01点を加点)
- 5 2022年10月末日時点で、空き家バンクに二地域居住を認めている登録物件がある
- 6 空き家バンク事業者で民間不動産業者(団体)と連携している
- 7 空き家バンクの登録物件が「田舎暮らしの本」(2022年1月号~12月号)で紹介された
- 8 定住促進住宅や移住者が入居できる公営住宅がある
- 9 移住者が賃貸住宅に長期間住み続けたら、その住宅を無償譲渡する制度がある

- 9 不育症治療費を助成する独自の制度がある
- 10 妊産婦医療費を助成する独自の制度がある
- 11 新生児聴覚検査費用を助成する独自の制度がある
- 12 子育て手帳アプリ(母子モなど)を導入している
- 13 24時間子どもの救急対応可能な病院がある
- 14 出産祝い金がある
- 15 小児科がある
- 16 オムツ購入費の補助がある
- 17 チャイルドシートの補助金や貸し出し支援制度がある
- 18 産前産後にヘルパーを無料で派遣する制度がある
- 19 保育所(園)の待機児童数がゼロである
- 20 認可保育所(園)がある
- 21 幼稚園がある
- 22 認定こども園がある
- 23 「森のようちえん」がある
- 24 シュタイナー教育、モンテッソーリ教育など、特徴的な教育施設がある
- 25 保育園や幼稚園の給食費を所得制限なしで無料化している
- 26 0~2歳児の保育料を所得制限なしで無償化している
- 27 0~2歳児の第2子、第3子の保育料を軽減している
- 28 病児保育を行っている施設がある
- 29 病後児保育を行っている施設がある
- 30 子どもの一時保育、一時預かりを行っている施設がある
- 31 児童館など学校以外に児童が集える公的施設がある
- 32 学童保育(放課後児童クラブ)の施設がある
- 33 学童保育の待機児童数がゼロである
- 34 子育て世代が集まれる子育て支援施設がある
- 35 子ども食堂がある
- 36 ファミリーサポートセンターを運営している
- 37 動物園や水族館、プラネタリウムなど子育て世代が魅力を感じる娯楽施設がある
- 38 入学祝い金を支給している
- 39 義務教育中の給食費を所得制限なしで無料化している
- 40 給食に地元産食材を積極的に使用している
- 41 中学生まで医療費(保険診療の自己負担額)が所得制限なしで無料
- 42 高校生まで医療費(保険診療の自己負担額)が所得制限なしで無料
- 43 離婚後未払いの養育費を立て替える制度がある
- 44 児童生徒向けのスポーツ少年団や地域クラブなどの活動が盛ん
- 45 英語教育に力を入れている
- 46 小学校で副教科の専門教員を置くため独自の予算を設けている
- 47 学外で小中高生を対象とした無料塾や定期的な補習などを実施し、学習を支援している
- 48 小中学生のスクールバスが所得制限なしで無料
- 49 小中高の一貫校がある
- 50 中高の一貫校がある
- 51 高校がある
- 52 部活動が県大会などで活躍している中学校・高校がある
- 53 高等専門学校、専門学校、短期大学、大学のいずれかがある
- 54 域外の高校に通う生徒に交通費を補助している
- 55 大学進学者に対して、市町村独自の有利子・無利子の奨学金がある
- 56 大学進学者に対して、市町村独自の返済不要の奨学金がある
- 57 山村(離島)留学を受け入れている小中学校がある

- 11 農業インターンシップの受け入れ農業法人がある
(<https://hojin.or.jp/agri/intern-html>)
- 12 農作業用機械・施設の導入に必要な経費を助成している
- 13 漁業従事者を求人している組合や団体がある
- 14 2022年度に漁業就業に関する相談会やセミナーを開催(に出展)した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加点)
- 15 林業従事者を求人している組合や団体がある
- 16 2022年度に林業就業に関する相談会やセミナーを開催(に出展)した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加点)
- 17 自伐型林業に力を入れている組合や団体がある
- 18 市町村独自の給付金を受けられる農林漁業の研修制度がある
- 19 市町村独自の給付金を受けられる農林漁業以外の産業(伝統産業など)の研修制度がある
- 20 起業・開業を支援する制度がある(地方創生起業支援事業とは別の制度)(★2022年度に移住者の起業・開業を支援した件数×0.1点を加点)
- 21 2022年度に起業・開業に関する相談会やセミナーを開催(に出展)した。または予定している(オンライン開催を含む)★(開催数×0.1点を加点)
- 22 事業承継を支援する制度がある★(2022年度に移住者の事業承継を支援した件数×0.1点を加点)
- 23 2022年度にビジネスプランコンテストを実施した(または予定している)



子育て世代部門 アンケート

57項目+重複23項目

子育て世代=子育て中の家族(子育て中であれば夫婦の年齢不問)、50代までの夫婦

- 1 2022年度(4月1日から10月末日時点)の移住者のうち、子育て中の家族(子どもを含む)、50代までの夫婦の移住者数を点数化。式は「移住者数÷人口×1000」
- 2 子育て世代のみを対象とした移住奨励金がある
- 3 シングルペアレントの移住支援に力を入れている
- 4 子育て世代のみを対象とした低価格の公営住宅がある
- 5 子育て世代のみを対象とした家賃補助がある
- 6 産院、産科、助産院のいずれかがある
- 7 助産師などが母子をサポートする産後ケア事業がある
- 8 不妊治療費の一部を助成する独自の制度がある

- 12 関係人口増・移住者増につながるゲストハウスがある
- 13 個人事業者が利用できるシェアオフィスやコワーキングスペースがある
- 14 企業のサテライトオフィスがある
- 15 スタートアップを支援するしくみや制度、施設がある
- 16 ワークーションの受け入れ体制を整えている
- 17 若者がかかわる地域おこしのサークルやグループがある
- 18 若者が中心となって行っている祭りや行事がある
- 19 ゲーム、アニメ、eスポーツなど若者が好む新しい文化を振興して地域の活性化を図っている
- 20 若者に人気があるスポーツを振興して地域の活性化を図っている
- 21 2022年度に婚活イベントを開催した。または予定している★(開催数×0.1点を加点)
- 22 結婚や新婚世帯への祝い金がある
- 23 結婚して住宅を取得または賃借する費用や引っ越し費用を補助する制度がある

若者世代・ 単身者部門、 子育て世代部門 に共通する アンケート

共通23項目

- 1 2022年度に起業支援金(地方創生起業支援事業)を交付された移住者がある★(人数×0.1点を加点)
- 2 2022年度に移住支援金(地方創生移住支援事業)を交付された移住者がある★(人数×0.1点を加点)
- 3 2022年度に移住支援金(地方創生移住支援事業)を交付された移住者で、転職をせずにテレワークなどで働く人がいる
- 4 ハローワークの求人情報を提供して就職を支援している
- 5 独自に集めた求人情報を提供して就職を支援している
- 6 転入に伴う就職活動の費用の一部を助成している
- 7 2022年度に主に第二次・第三次産業の企業の就職相談会を開催(に出展)した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加点)
- 8 2022年度に農業次世代人材投資資金の受給者になった移住者がいる
- 9 2022年度に農業就業に関する相談会やセミナーを開催(に出展)した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加点)
- 10 JAや農地所有適格法人(農業法人)、NPOなどが新規就農を支援している

- 20健康維持のための予防施設、フィットネス施設、プール、認知症予防教室などがある
- 21集団健診や特定健診の受診を促すために、受診表の送付や告知など以外に、積極的な働きかけを行っている
- 22各種がん検診が無料で受けられる
- 23後期高齢者医療保険加入者は後期高齢者健診が無料で受けられる
- 24役場から車で30分圏内に救命救急センターがある
- 25地域医療に熱心で、在宅医療や訪問看護に力を入れている医療機関がある
- 26眼科の医療機関がある
- 27皮膚科の医療機関がある
- 28整形外科の医療機関がある
- 29歯科医院または歯科診療所が2カ所以上ある
- 30シニア世代が安く利用できる温泉施設がある
- 31シニアが割引運賃で利用できる路線バスや路面電車が運行している
- 32デマンドバスや乗り合いタクシーなど交通弱者向けのしくみがある
- 33買い物弱者向けの移動販売がある
- 34高齢者見守り活動に取り組んでいる
- 351人暮らしの高齢者などに配食サービスを行っている
- 36在宅介護を支援するしくみや講習会がある
- 37要介護3以上の希望者は域内の特別養護老人ホームにおおむね数カ月以内に入所できる
- 38全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」に該当する具体的な取り組みがある

- 32022年度に主にシニアを対象とした現地体験ツアーを開催した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加点)
- 4シニアの移住者も対象となる移住奨励金がある
- 5シニアの就労を積極的に支援している
- 62022年度に起業・開業したシニア世代の移住者がいる
- 72022年度に事業承継したシニア世代の移住者がいる
- 8現在、シニア世代の地域おこし協力隊員が活動している★(現在活動中の隊員の人数×0.1点を加点)
- 9シルバー人材センターがある
- 10シニアが利用できる就農支援制度がある
- 112022年度に就農したシニア世代の移住者がいる
- 12シニアが利用できる住まいの補助(新築、改修、家賃など)がある
- 13ボランティア活動など、シニアの社会参加を支援する制度がある
- 14「介護支援ボランティア」などシニアに社会貢献を促すポイント制度がある
- 15シニアのスキルや特技を生かした社会参加へのマッチングを支援している
- 16シニアが活発に交流できる公民館やコミュニティカフェなどがある
- 17公民館活動で生涯学習に取り組んでいる
- 18シニアの健康づくりを推奨する取り組みを行っている
- 19住民が参加できる生活習慣病予防の栄養指導や講習がある



シニア世代 (60歳以上)部門 アンケート

38項目

シニア世代=60歳以上

- 12022年度(4月1日から10月末日時点)の移住者のうち、60歳以上の移住者数を点数化(60歳以上で子育て中の場合は子育て世代に含む)。式は「移住者数÷人口×1000」
- 22022年度に主にシニアを対象とした移住セミナーを開催した。または予定している(オンラインを含む)★(開催数×0.1点を加点)